

## 第77回結核予防全国大会 おことば



令和8年3月18日(水)

本日、「第77回結核予防全国大会」が愛媛県において開催され、皆さまにお会いできましたことを大変うれしく思います。

本大会におきまして、「第二十九回秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰を受けられる皆さまに心よりお祝い申し上げます。この度の受賞者をはじめ、長年にわたり結核対策に取り組んでこられた多くの方々に対し、深く敬意を表します。

日本における結核の状況をみますと、結核罹患率は着実に低下してきましたが、2024年は低まん延国の水準を維持しながらも、罹患率は8.1で前年と変わりませんでした。年間約1万人以上が新たに結核患者として登録され、1,400人以上が命を落としています。若年層で結核患者が増加し、特に増えた20歳台では、外国生まれの患者の割合が9割を占めています。このような状況の中で、結核の診断を遅らせず、完治するまで治療を受けられるようにするために、患者の周囲の人々と協力し、言語や生活習慣などの違いをも越えて最善の医療を進めておられる関係者の皆さまのご尽力に感謝いたします。

また、世界では、WHOの推定で1年間に約1,070万人が結核に罹患し、123万人が亡くなっていると報告されています。SDGsの目標の1つである、結核の終息を実現するために、私たちを含め、世界の結核対策の関係者が協力し、努力を続けていくことが求められています。

昨日おこなわれた研鑽集会では「目を凝らして高齢者・外国出生者の結核と向

き合う」をテーマに、国の審議会の最新の動向や愛媛県の結核の現状と対策などについての発表がありました。ここにお集まりの皆さまをはじめ関係者が力を合わせ、対策をさらに充実させていくことが重要であると思います。

毎年、9月24日から30日までの「結核・呼吸器感染症予防週間」には、結核予防会が厚生労働省をはじめ行政機関・学会や結核予防婦人会などと協力し、普及啓発活動をおこなっています。コロナ禍の記憶が薄れつつある中、特に症状が重くなりやすい高齢者や基礎疾患のある人にとって呼吸器感染症への対策が必要であると広く知らせることが大切です。予防週間におこなわれる街頭キャンペーンやシンボルタワー等のライトアップは、結核やその他の感染症予防を心に留めてほしいというメッセージを発信しています。

昨年の予防週間には、ここ愛媛県においても愛媛県庁本館ドームが赤色にライトアップされ、複十字シール運動の一環として街頭募金運動がおこなわれたと伺いました。また、昨年の秋に訪れた北海道札幌市では、北海道庁旧本庁舎など3か所が初日にライトアップされ、札幌駅近くの地下歩道空間で結核とCOPDの予防普及啓発キャンペーンがおこなわれているのを見学しました。このように各地で、結核や呼吸器感染症に関する正しい知識の普及を目的として様々な取り組みが続けられていることは大変意義深いことであると思っております。

本大会に参加されている皆さまが健康に留意され、それぞれの場で結核および呼吸器感染症を防ぐ活動を進め、誰もが安心して暮らすことのできる社会になることを願い、式典に寄せる言葉といたします。